

1 月別気象概況（平成 30 年 1 月～12 月）

福岡管区気象台

（1）1 月の気象概況

**上旬：初めは高気圧に覆われ概ね晴れ 中頃は低気圧や寒気の影響で曇りや雨
終わりは強い寒気の影響で雪 多雨**

8 日は空港北町で「日最大 1 時間降水量の多い方から」の 1 月の極値更新

- ・期間の初めは高気圧に覆われて概ね晴れた。中頃は一時的に高気圧に覆われ晴れた日もあったが、低気圧・前線や寒気の影響を受けて雲が広がりやすく、1 月としてはまとまった雨の降った日があった。期間の終わりは冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込んで各地で雪が降り、積雪したところもあった。8 日は低気圧・前線の通過により、空港北町では日最大 1 時間降水量 9.5mm を観測し、「日最大 1 時間降水量の多い方から」の 1 月の極値を更新した。
- ・気温は、1 月 8 日は平年よりかなり高くなったが、その他の日は平年と同じか低く経過し、旬の平均では概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は各地とも平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、3.5～6.9℃（平年差 -0.9～+0.1℃）で、平年並の所と低い所があった。旬降水量は、18.0～69.5mm（平年比 121～743%）で、概ね平年より多くなったが、かなり多い所もあった。旬日照時間は、平年比 77～92%で、平年より少ない所が多かった。

中旬：初めは冬型気圧配置と寒気の影響で曇りや雪が降り、中頃から終わりにかけて高気圧に覆われ晴れの日もあったが低気圧や気圧の谷の影響で雲が多く雨も降った

- ・期間の初めは冬型気圧配が強まり、強い寒気が流れ込んで雪が降り、積雪した所もあった。期間の中頃は低気圧の通過や気圧の谷の影響で雨の日が多く、期間の終わりは高気圧に覆われ概ね晴れたが気圧の谷の影響で雲も多かった。
- ・気温は、県内各地で期間の前半は平年を下回る日が続いたが、後半は平年を上回った。降水量は県内の多くの地点で平年を下回り、日照時間は県内

各地で概ね平年を下回った。

- ・県内各地の旬平均気温は、 $3.8\sim 6.7^{\circ}\text{C}$ （平年差 $-0.6\sim +0.2^{\circ}\text{C}$ ）で、平年並だった。旬降水量は、 $14.0\sim 33.5\text{mm}$ （平年比 $60\sim 121\%$ ）で、平年並だった。旬日照時間は、平年比 $59\sim 108\%$ で、平年より少ない所が多かった。

下旬：高気圧に覆われ晴れる日もあったが期間を通じて冬型気圧配置と寒気の影響で曇りや雪か雨の日多かった 低温

24日 強い寒気が流れ込み「大雪に関する福岡県気象情報」発表

30日 寒気の流れ込みが持続し「長期間の低温に関する福岡県気象情報」発表

- ・期間の初めと後半は高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷の接近や九州南岸を低気圧が通過し雨の降った日もあった。中頃には高気圧に覆われて晴れた日もあったが、冬型気圧配置が強まり、強い寒気の流れ込みにより雪が降り積雪した所もあった。
- ・気温は、各地とも平年を下回り、旬の平均では平年をかなり下回った所が多かった。降水量は平年を下回るところが多かった。日照時間は平年を上回るところが多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、 $0.9\sim 3.9^{\circ}\text{C}$ （平年差 $-2.6\sim -1.7^{\circ}\text{C}$ ）で、各地とも平年よりかなり低かった。旬降水量は、 $8.0\sim 20.0\text{mm}$ （平年比 $30\sim 85\%$ ）で、平年並か少ないところが多かった。旬日照時間は、平年比 $83\sim 139\%$ で、概ね平年より多い所が多かった。

(2) 2月の気象概況

上旬：期間の中頃を中心にこの冬一番の非常に強い寒気が流れ込んで数日にわたって雪が降り積雪する所も 低温

2日から7日にかけて連日「大雪に関する福岡県気象情報」発表

1日と5日は「低温」に関する「異常天候早期警戒情報」発表

6日は空港北町と博多で「日最高気温の低い方から」の2月の極値更新

- ・期間の初めは九州南海上を東進した低気圧や気圧の谷の影響で雨が降り、その後次第に冬型気圧配が強まり、期間の中頃はこの冬一番の非常に強い寒気が流れ込んで冷え込み、4日から7日にかけて連日雪が降り積雪した所もあった。これを受けて福岡管区気象台では、2日から7日にかけて「大雪に関する福岡県気象情報」を、6日には「低温」に関する「異常天候早期警戒情報」を発表して雪と寒さに対する警戒を呼びかけた。また、6日は強い寒気の流れ込みの影響で、空港北町と博多で 2.0℃の日最高気温を観測し、「日最高気温の低い方から」の2月の極値を更新した。
- ・期間の終わりは冬型気圧配置が弱まり高気圧に覆われて概ね晴れたが、期末は九州南岸を東進した低気圧の影響で雨となった。
- ・気温は、期間を通じて平年を下回る日が続き、特に期間の中頃を中心に平年を大きく下回り、旬の平均でも県内各地で平年を大きく下回った。降水量は平年を下回った所が多く、日照時間は概ね平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、1.0～3.8℃（平年差 -3.4～-2.5℃）で、各地とも平年よりかなり低かった。旬降水量は、12.5～28.0mm（平年比 57～150%）で、概ね平年並となった。旬日照時間は、平年比 68～102%で、概ね平年より少なかった。

中旬：期間のはじめは冬型気圧配置で雪が降り積雪する所もあった中頃から終わりにかけては高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や低気圧の影響で雨の降る日もあった。

11日に「うめ」が開花、13日に「つばき」が開花

- ・間の初めは冬型の気圧配置が強まり強い寒気の影響で、11日と12日は雪が降り積雪した所もあった。これを受けて福岡管区気象台では、11日から13日にかけて「大雪に関する福岡県気象情報」を発表して、雪に対する警

戒を呼びかけた。中頃から終わりにかけては高気圧に覆われ晴れた日もあったが、15日から16日にかけて前線が九州を南下し、19日は九州南岸を通過した前線や低気圧の影響で雨が降った。

- ・気温は、期間の中頃と終わりに平年を上回ったが、期間の前半は平年を大きく下回り、旬の平均でも県内各地で平年を下回った。降水量は平年を下回り、日照時間は概ね平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、3.6～6.6℃（平年差 -1.9～-0.9℃）で、各地とも平年より低かった。旬降水量は、3.0～17.0mm（平年比 18～62%）で、概ね平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 88～109%で、各地で平年並となった。

下旬：天気は周期変化 28日は発達した低気圧と前線の影響で大荒れの天気

23日に福岡で「ヒバリ」の初鳴を観測

26日に福岡で「たんぽぽ」の開花を観測

空港北町で「月降水量の少ない方から」、28日は朝倉で「日最大風向・風速」の2月の極値を更新

27日から28日にかけて「暴風と高波に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報 第1号～4号」発表

3月1日に福岡管区气象台からお知らせ「2018年（平成30年）の九州北部地方（山口県を含む）の冬の低温 ～32年ぶりの低温～」発表

- ・期間を通じて高気圧と低気圧や前線が交互に通過して天気は周期的に変化した。28日は東シナ海から対馬海峡へ前線を伴って低気圧が発達しながら通過し、雷を伴い雨となり風も強く大荒れの天気となった。空港北町で29.5mmの「月降水量の少ない方から」、28日は朝倉で「日最大風向・風速」SSW 11.0m/sの2月の極値を更新した。
- ・気温は、期間の前半は平年を下回ったが、中頃と終わりに平年を上回り、旬の平均では平年を上回った。降水量は平年を下回り、日照時間は概ね平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、6.4～8.8℃（平年差 -1.4～+0.9℃）で、各地とも平年並だった。旬降水量は、7.5～52.0mm（平年比 25～153%）で、概ね平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 110～138%で、平年並か多かった。九州北部地方では12月から2月にかけて、北から寒気が流れ込み低温となり、冬（2017年12月～2018年2月）の九州北部地方地域平均気温平年差は、-1.3℃と低くなり32年ぶりの低温となった。

(3) 3月の気象概況

上旬：高気圧と低気圧・前線や気圧の谷が交互に通過して天気は短い周期で変化

1日は空港北町と行橋で、9日は朝倉で「日最大風向・風速」の3月の極値更新

5日は黒木で「日降水量」、黒木と柳川で「日最大1時間降水量」の3月の極値更新

- ・期間を通して高気圧と低気圧・前線や気圧の谷が交互に通過して天気は短い周期で変化した。1日と9日は西高東低の気圧配置が強く、1日に空港北町で西・19.7m/s、行橋で西南西・15.1m/s、9日に朝倉で北・10.6m/sの日最大風向・風速を観測し、いずれも3月の極値を更新した。5日は対馬海峡を東へ進んだ低気圧からのびる前線が九州地方を通過して雷を伴った雨となった。黒木で75.5mmの日降水量および31.5mmの日最大1時間降水量、さらに柳川でも33.5mmの日最大1時間降水量を観測し、いずれも3月の極値を更新する雨量となった。また、8日は低気圧が九州北部付近を通過して雨となった。
- ・気温は、期間の中頃までは平年を上回る日が続いたが、期間の終わりは平年を下回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は平年を上回る所と下回る所があった。
- ・県内各地の旬平均気温は、8.0～10.2℃（平年差 +1.0～+2.0℃）で、各地とも平年より高かった。旬降水量は、45.0～117.0mm（平年比 105～312%）で、各地とも平年より多く、かなり多い所も数カ所あった。旬日照時間は、平年比 84～113%で、概ね平年並となった。

中旬：前半は高気圧に覆われて連日晴れ 後半は低気圧・前線の通過で周期的に雨

15日は福岡で「つばめ」の初見、19日は福岡で「そめいよしの」の開花を観測

- ・期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が続き、期間の後半は高気圧と低気圧・前線が交互に通過して、天気は短い周期で変化した。19日は前線が九州地方を南下して雨が降り、また、19日から20日は前線を伴う低気圧

が九州付近を通過して雨が降り、多い所で日降水量が約 20mm の雨量となった。また、期間の前半を中心に気温の高い日が続いた影響で、福岡で 19 日に「そめいよしの」の開花を観測したが、これは、平年より 4 日早く、昨年より 6 日早かった。

- ・気温は、期間の前半は平年を上回る日が続いたが、期間の後半は平年を下回る期間と上回る期間が交互に現れ、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は概ね平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、9.6～12.5℃（平年差 +0.9～+2.3℃）で、各地とも平年より高かった。旬降水量は、52.5～77.5mm（平年比 113～199%）で、概ね平年より多かった。旬日照時間は、平年比 98～128%で、平年より多い所と平年並の所があった。

下旬：はじめは低気圧や寒気の影響で雨 その後高気圧に広く覆われて連日晴れ 多照

27 日は福岡で「そめいよしの」の満開を観測、22 日と 26 日は「高温」に関する「異常天候早期警戒情報」発表

30 日は飯塚と太宰府と黒木で「日最高気温の高い方から」、行橋と飯塚で「月間日照時間の多い方から」の 3 月の極値を更新

- ・期間のはじめは九州南岸を東へ進んだ低気圧の影響により、各地で雨が降り多い所で日降水量は約 40mm となった。また、22 日は低気圧通過後の寒気の影響で雨が降った。その後の期間の終わりにかけては、気圧の谷の影響を受けて雲が広がる日もあったが、大陸から東西に広がる優勢な高気圧に覆われて、晴れの日が続いた。福岡で 27 日に「そめいよしの」の満開を観測したが、これは平年より 5 日早く、昨年より 9 日早かった。
- ・気温は、各地とも期間のはじめは平年を下回る日があったが、その後の後半にかけては平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を概ね下回り、日照時間は県内各地で平年をかなり上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、11.0～12.9℃（平年差 +0.9～+1.9℃）で、各地とも平年より高かった。旬降水量は、23.5～58.5mm（平年比 46～124%）で、平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 173～198%で、平年よりかなり多かった。

(4) 4月の気象概況

上旬：期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れたが、中頃は曇りや雨 多
照

- ・期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、中頃は低気圧や前線、気圧の谷の影響で雨の日が多かった。
- ・気温は、期間のはじめから中頃は平年を上回り、終わりは平年を下回った日があったが、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、13.8～16.3℃（平年差 +1.8～+2.8）で概ね各地とも平年よりかなり高く、旬降水量は、2.5～47.5mm（平年比 14～78%）で各地とも平年並か平年より少なく、旬日照時間は平年比 102～122%で、各地とも平年並か平年より多かった。

中旬：高気圧と低気圧や気圧の谷が交互に通過して、天気は短い周期で変化
14日は、朝倉で「日最大風向・風速」の4月の極値を更新

- ・期間を通して高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。14日は低気圧が発達しながら朝鮮半島南岸を東に進み、この低気圧からのびる寒冷前線が九州を通過して雨が降った。
- ・気温は、期間のはじめと終わりは平年を上回り、中頃は平年を下回った日があったが、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年並か平年を下回り、日照時間は県内各地で平年並か平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、15.2～16.9℃（平年差 +1.1～+2.1）で概ね各地とも平年より高く、旬降水量は、12.0～69.0mm（平年比 31～119%）で各地とも平年並か平年より少なく、旬日照時間は平年比 107～124%で、各地とも平年並か平年より多かった。

下旬：期間の中頃は低気圧や前線、気圧の谷の影響により曇りや雨、その他は
高気圧に覆われ概ね晴れ

21日は、飯塚と太宰府で「日最高気温の高い方から」の4月の極値を更
新

23日は「高温」に関する「異常天候早期警戒情報」発表

24日は、朝倉で「日最大風向・風速」の4月の極値を更新

30日は、空港北町で「日最低気温の高い方から」の4月の極値を更新

- ・期間のはじめは高気圧に覆われ晴れたが、23日から25日にかけて、低気圧や前線、気圧の谷の影響で雨が降った。特に24日は前線を伴った低気圧が九州北部を通過したため、所によっては日降水量が80ミリを超えるまとまった雨量となった。その後は、再び高気圧に覆われて概ね晴れた。
- ・気温は、中頃は平年を下回った日があったが、その他の日は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年並か平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、16.3～18.6℃（平年差 +1.1～+2.1）で各地とも平年より高く、旬降水量は、28.5～88.0mm（平年比 72～149%）で各地とも概ね平年並か平年より多く、旬日照時間は平年比 112～123%で、各地とも平年より多かった。

(5) 5月の気象概況

上旬：天気は数日の周期で変化し 6日から7日にかけて低気圧や前線の影響により大雨 気温は平年より低く経過 「多雨」

3日から4日にかけて、「落雷と降ひょうに関する福岡県気象情報」を発表

6日から7日にかけて、「大雨に関する福岡県気象情報」を発表

9日に、やまつつじの開花を観測

- ・期間中、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化した。6日から7日にかけては朝鮮半島南部から日本海に進んだ低気圧からのびる前線が九州北部地方を通過したため、総降水量は各地で70から90ミリの雨量となった。
- ・気温は、期間のはじめは平年を上回った日があったが、その他の日は概ね平年を下回り、旬の平均では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年より多く、日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、16.2～17.8℃（平年差 -1.4～-0.1℃）で平年より低い所が多く、旬降水量は、67.0～141.5mm（平年比 129～258%）で各地とも平年より多くかなり多い所があった。旬日照時間は平年比 83～103%で、各地とも平年並か平年より少なかった。

中旬：天気は数日の周期で変化し 13日と18日は低気圧や前線の影響により雨 気温は平年よりかなり高い 「高温」

17日は、福岡、飯塚、八幡、前原、博多で、「日最低気温の高い方から」の5月の極値を更新

18日は、朝倉で、「日最大風向・風速」の5月の極値を更新

- ・期間中、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化した。13日と18日は前線の活動が九州北部地方で活発になり、各地で雨となった。
- ・気温は、期間をとおして概ね平年を上回ったが、終わりは平年を下回り、旬の平均では県内各地で平年をかなり上回った。降水量は県内各地で平年並か平年より少なく、日照時間は県内各地で平年並か平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、18.3～21.8℃（平年差 1.1～2.9℃）で平年よりかなり高い所が多く、旬降水量は、18.0～46.5mm（平年比 25～63%）で

各地とも平年並か平年より少なかった。旬日照時間は平年比 110～122%で、各地とも平年並か平年より多かった。

下旬：天気は数日の周期で変化 23日と26日から28日にかけて低気圧や前線の影響により雨 気温は平年よりかなり高い「高温」
28日ごろに九州北部地方は梅雨入り(平年比8日早い・昨年比23日早い)

- ・期間中、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化した。期間の後半は九州南海上に停滞した梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、28日には九州北部地方の梅雨入りを発表した。
- ・気温は、期間をとおして概ね平年を上回ったが、後半は平年を下回った所があった。旬の平均では県内各地で平年をかなり上回った。降水量は県内各地で平年より少なく、日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.0～22.9℃(平年差 1.2～2.4℃)で平年よりかなり高い所が多く、旬降水量は、3.5～19.0mm(平年比 8～41%)で各地とも平年より少なかった。旬日照時間は平年比 75～88%で、各地とも平年より少なかった。

(6) 6月の気象概況

上旬：期間のはじめは高気圧に覆われて晴れ 中頃からは気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨

- ・期間のはじめは、梅雨前線が南西諸島まで南下し九州北部地方は概ね高気圧に覆われたため、晴れの日が多かった。中頃からは、気圧の谷や梅雨前線の影響で、曇りや雨の日が多かった。5日は九州南部の梅雨前線上を低気圧が通過したため、県内各地で26.0mmから48.5mmの日降水量を観測した。
- ・気温は、期間の中頃に平年を下回った日があったが、その他の日は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年並の所が多く、日照時間も県内各地で概ね平年並であった。
- ・県内各地の旬平均気温は、21.3～23.9℃（平年差 +0.5～+1.6℃）で平年よりかなり高い所が多く、旬降水量は、28.5～73.5mm（平年比 65～258%）で平年並か多く、旬日照時間は平年比 83～108%で平年並の所が多かった。

中旬：11日と期間の終わりは気圧の谷や梅雨前線の影響により雨 中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多い

19日から20日にかけて、「大雨に関する福岡県気象情報」を発表

- ・11日は気圧の谷の影響で雨となったが、期間の中頃にかけて高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期間の終わりは低気圧や梅雨前線の影響で雨の日が多く、特に、19日から20日にかけては九州北部地方で梅雨前線の活動が活発になり、総降水量が多い所では100mmを超える大雨となった。
- ・気温は、期間の終わりに平年を上回る日があったが、平年より低い日が多く、旬の平均では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年並みか平年より多く、日照時間は県内各地で平年並みか平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.7～23.1℃（平年差 -1.2～0.0℃）で平年より低い所が多く、旬降水量は、75.5～128.0mm（平年比 85～191%）で各地とも平年並みか平年より多かった。旬日照時間は平年比 83～130%で、各地とも平年並か平年より多かった。

下旬：前半は高気圧に覆われて晴れの日が多いが、23日と期間の後半は気圧の

谷や梅雨前線の影響により雨

28日から30日にかけて、「大雨と落雷及び突風に関する福岡県気象情報」
「土砂災害警戒情報」「記録的短時間大雨情報」を発表

27日は、空港北町で「日最低気温の高い方から」の6月の極値を更新

29日は、行橋で「日最大1時間降水量」の6月の極値を更新

30日は、太宰府で「日最大10分間降水量」の6月の極値を更新

- ・期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。後半は低気圧や梅雨前線の影響で雨の日が多く、28日から30日にかけては梅雨前線の活動が活発になり、特に29日は日降水量が多い所では100mmを超える大雨となった。
- ・気温は、期間のはじめに平年を下回る日があったが、平年より高い日が多く、旬の平均では県内各地で平年並か平年を上回った。降水量は県内各地で平年並みか平年より多く、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、23.6～25.7℃（平年差 0.4～1.8℃）で平年より高い所が多く、旬降水量は、102.5～221.5mm（平年比 66～127%）で各地とも平年並みの所が多かった。旬日照時間は平年比 120～147%で、各地とも平年より多かった。

(7) 7月の気象概況

上旬：台風や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い 多雨

5日から7日にかけては、梅雨前線が停滞し活動が非常に活発となり、記録的な大雨

6日の「日降水量」は、各地で年の極値を更新

6日から7日にかけて、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合に発表する「大雨特別警報」を発表

9日には、九州北部地方の梅雨明け（平年比10日早い・昨年比4日早い）を発表

- ・期間のはじめと終わりに高気圧に覆われて晴れの日があったが、台風や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かった。3日は台風第7号が九州の西海上から対馬海峡を北上したため大荒れの天気となり、「日最大風速」は、朝倉で年の極値を更新、八幡、前原、博多で7月の極値を更新、日降水量は太宰府で135.5mm、早良脇山で194.5mmを観測するなど大雨となった所があった。5日から7日は、梅雨前線の活動が非常に活発となり、6日夕方には、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されたため「大雨特別警報」を発表し、最大級の警戒を呼びかけた。6日の日降水量は、行橋で292.0mm、飯塚で338.0mm、久留米で277.0mm、耳納山で318.0mm、添田で391.0mm、太宰府で332.0mm、博多で262.0mm、空港北町で234.5mmを観測し、「日降水量」の年の極値を更新する記録的な大雨となった。9日は高気圧に覆われて次第に晴れとなり、九州北部地方の梅雨明けを発表した。
- ・気温は、期間の後半は平年を下回った日があったが、その他の日は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年よりかなり多く、日照時間は県内各地で平年並であった。
- ・県内各地の旬平均気温は、24.6～26.7℃（平年差 0.0～+1.0℃）で概ね平年並、旬降水量は、138.0～720.5mm（平年比 241～450%）で平年よりかなり多く、旬日照時間は平年比 65～95%で概ね平年並だった。

中旬：期間を通して、高気圧に覆われ晴れて猛暑が続く 高温 少雨 多照

期間中連日、「高温注意情報」を発表

20日は、福岡、太宰府、添田、久留米で「日最高気温の高い方から」の

年の極値更新 宗像、前原、博多で「日最高気温の高い方から」の7月の極値更新

- ・期間を通して、高気圧に覆われて晴れの日が続いた。強い日射の影響により気温が上昇し、連日、日最高気温が35℃以上の猛暑日となる所が多く、期間中連続で「高温注意情報」を発表した。特に20日は、「日最高気温の高い方から」の7月の極値を更新した所が多く、福岡(38.3℃)、太宰府(38.6℃)、添田(37.2℃)、久留米(38.5℃)では年の極値を更新し、記録的な猛暑となった。
- ・気温は、期間を通して平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年よりかなり高くなった。降水量は県内各地で平年よりかなり少なく、日照時間は県内各地で平年よりかなり多くなった。
- ・県内各地の旬平均気温は、28.1~31.0℃(平年差 +2.2~+4.0℃)で平年よりかなり高く、旬降水量は、各地とも0.0mm(平年比 0%)で平年よりかなり少なく、旬日照時間は平年比 178~251%でかなり多かった。

下旬：期間の中頃まで高気圧に覆われて晴れた日が多く、引き続き猛暑が継続、
終わりは台風の影響を受けた 高温
期間中、21日から28日まで「高温注意情報」を発表
24日は、久留米で「日最低気温の高い方から」の7月の極値更新
26日は、久留米で「日最高気温の高い方から」の年の極値更新
21日に、「さるすべり」の開花を観測

- ・期間のはじめから中頃までは高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。強い日射の影響により気温が上昇し、連日、日最高気温が35℃以上の猛暑日となる所が多く、「高温注意情報」は7月9日から28日まで連続の発表となった。22日と期間の終わりは上空の寒気や台風第12号の影響で曇りや雨となった。久留米の最高気温(38.5℃)は、26日は20日に続き「日最高気温の高い方から」の年の極値を更新した。
- ・気温は、期間の中頃までは平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年よりかなり高くなった。降水量は県内各地で平年並で、日照時間は県内各地で平年並か多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、28.3~30.4℃(平年差 +1.2~+2.3℃)で平年よりかなり高く、旬降水量は、13.5~134.0mm(平年比 45~148%)と平年並で、旬日照時間は平年比 90~127%で平年並か多かった。

(8) 8月の気象概況

上旬：期間を通して概ね晴れの日となり、引き続き猛暑が続いた。高温 少雨 多照

期間中、全ての日に「高温注意情報」を発表

- ・期間を通して、高気圧に覆われて晴れの日が続いた。強い日射の影響により気温が上昇し、連日、日最高気温が 35℃以上の猛暑日となる所があり、「高温注意情報」は期間中の全ての日で発表となった。2日は強い日射と湿った気流の影響で一時雷雨となった所があった。
- ・気温は、期間の後半は平年並の日があったが、その他の日は平年を上回り、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年よりかなり少なく、日照時間は県内各地で平年よりかなり多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、28.1～30.9℃（平年差 +1.3～+2.7℃）で平年より高いかかなり高く、旬降水量は、0.0～30.5mm（平年比 00～62%）で平年よりかなり少なく、旬日照時間は平年比 135～190%で平年よりかなり多かった。

中旬：期間の前半と終わりは高気圧に覆われて猛暑 中頃は台風や前線の影響で雨 高温 多照

15日と17日を除き連日「高温注意情報」を発表

13日は久留米で、14日は添田で「日最高気温の高い方から」の年の極値を更新

13日、14日は、太宰府で「日最高気温の高い方から」の8月の極値を更新

- ・期間を通して、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。強い日射の影響により気温が上昇し、日最高気温が 35℃以上の猛暑日となる所があり、15日と17日を除いて連日「高温注意情報」を発表した。日最高気温は、13日に久留米で 39.5℃、14日に添田で 37.8℃を観測し、それぞれ「日最高気温の高い方から」の年の極値を更新した。太宰府では13日、14日に 38.3℃を観測し、「日最高気温の高い方から」の8月の極値を更新した。12日から13日にかけては強い日射の影響により積乱雲が発達し雷雨となった所があった。15日は台風第15号が宮崎県日向市付近に上陸後福岡県を通過した影響で、強風を伴い雨となった。

- ・気温は、期間の前半はかなり高く、後半は平年並で、旬の平均では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年よりかなり少なく、日照時間は県内各地で平年よりかなり多かった。
- ・県内各地の旬平均気温は、27.1～30.0℃（平年差 +0.6～+2.1℃）で平年より高いかかなり高く、旬降水量は、2.5～46.5mm（平年比 7～76%）で平年より少なく、旬日照時間は平年比 128～148%で平年よりかなり多かった。

下旬：21日から23日にかけて台風が九州に接近 期間を通して高気圧に覆われて晴れの日が多く猛暑が続いた 高温

21日から29日まで、連日「高温注意情報」を発表

21日は、福岡、博多で「日最高気温の高い方から」の8月の極値を更新

22日は、福岡、宗像、八幡、博多、太宰府、添田、朝倉、久留米、黒木で「日最低気温の高い方から」の年の極値を更新

多くの地点で、「月平均気温の高い方から」、「月降水量の少ない方から」、「月間日照時間の多い方から」の8月及び年の極値を更新

- ・期間のはじめ、台風第19号と第20号の福岡県への影響は小さかったが、台風に伴う暖かい空気の流れ込みで気温が上がり、「日最高気温の高い方から」や「日最低気温の高い方から」の極値を更新した所があった。その後は高気圧に覆われて晴れの日が多く猛暑が続き、21日から29日まで連日「高温注意情報」を発表した。30日から31日にかけては前線が対馬海峡まで南下し、高気圧周辺の湿った気流の影響で雨が降り雷雨となった所があった。
- ・気温は、期間を通して平年をかなり上回る日が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、28.4～30.3℃（平年差 +2.1～+3.3℃）で平年よりかなり高く、旬降水量は、2.0～49.0mm（平年比 3～69%）で平年より少ない所が多く、かなり少ない所もあった。旬日照時間は、平年比 111～144%で平年より多かった。

(9) 9月の気象概況

上旬：期間の前半は晴れの日が多く、後半は九州付近に停滞した前線の影響で雨の日が多かった

8月31日から9月1日にかけて、「大雨と落雷及び突風に関する福岡県気象情報」を発表

3日は、「高温注意情報」を発表

9日に、「やまはぎ」の開花を観測

- ・台風第21号は、4日に四国に上陸し、その後近畿地方を縦断したが福岡県への影響は小さく、期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日と期間の後半は九州付近に停滞した前線と高気圧周辺の湿った気流の影響で雨が降り、雷雨となった所があった。
- ・気温は、期間の初めは平年を上回る日が多かったが、期間の終わりは平年を下回る日が多かった。降水量は県内の多い所で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、23.7～25.7℃（平年差 -1.3～±0.0℃）で平年並か平年より低く、旬降水量は、61.5～137.0mm（平年比 88～228%）で平年並か平年より多かった。旬日照時間は、平年比 59～75%で平年より少なかった。

中旬：高気圧に覆われて晴れの日もあったが、前線の影響で曇りや雨の日が多く、20日は所により大雨となった

20日は、「落雷と突風に関する福岡県気象情報」を発表

- ・12日から14日にかけて、前線が九州北部地方を北上したため曇りや雨となった。その後、期間の中頃からは高気圧に覆われて晴れる日もあったが、20日は前線の影響により多くの地点で日降水量が30mmを超える雨となった。
- ・気温は、期間の初めは平年を下回る日があったが、期間の中頃からは平年を上回る日が多かった。降水量は、平年並か平年を上回り、かなり多い所もあった。日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、23.3～25.7℃（平年差 -0.2～+1.5℃）で平年並

か平年より高く、旬降水量は、30.0～114.5mm（平年比 55～281%）で平年並か平年より多かった。旬日照時間は、平年比 55～78%で平年より少なかった。

下旬：期間の前半は前線や低気圧の影響で曇りや雨 終わりは台風第 24 号の影響で大荒れ

21日は、「落雷と突風に関する福岡県気象情報」を発表

30日は、朝倉で「日最大風向・風速」の年の極値更新

行橋、朝倉で「日最大瞬間風向・風速」の9月の極値更新

- ・21日は対馬海峡付近の秋雨前線上を低気圧が東へ進んだため、曇りや雨となった。また、24日は気圧の谷や九州の南岸まで北上した前線の影響で曇りや雨となった。その後、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、30日は非常に強い台風第 24 号が日向灘を北東へ進んだため、大荒れの天気となった。
- ・気温は、期間のはじめは平年を上回ったが、中頃からは平年を下回る日があった。降水量は、平年並か平年を上回る所が多かった。日照時間は県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.5～23.0℃（平年差 -0.7～+0.9℃）で平年並か平年より高く、旬降水量は、64.5～126.0mm（平年比 129～200%）で平年より多かった。旬日照時間は、平年比 62～81%で平年より少なかった。

(10) 10月の気象概況

上旬：天気は数日の周期で変化 6日は台風第25号の影響で大荒れ

6日の「日最大風速・風向」は、朝倉で年の極値を更新、八幡、空港北町、久留米、黒木で10月の極値を更新

「日最大瞬間風速・風向」は、行橋、太宰府、添田、朝倉、黒木で10月の極値を更新

- ・期間を通して、天気は数日の周期で変化した。4日から5日にかけて秋雨前線の影響で雨となり、6日は大型で強い台風第25号が九州の西海上を北上した後朝鮮半島南岸付近を北東へ進んだため、大荒れの天気となった。「日最大風速・風向」は、朝倉で南16.1m/sを観測し年の極値が更新され、県内のその他の4地点で10月の極値を更新した。また、「日最大瞬間風速・風向」も朝倉で南27.2m/sを観測するなど県内の5地点で10月の極値を更新した。台風通過後は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いたが、10日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線が通過したため雨となった。
- ・気温は、期間のはじめは平年を下回ったが、中頃からは真夏日となった所があり平年を上回った。降水量、日照時間共に、県内各地で平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、20.0～22.0℃（平年差 +0.1～+1.5℃）で平年より高く、旬降水量は、9.0～39.5mm（平年比 28～75%）で平年並か平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 73～89%で平年より少なかった。

中旬：期間のはじめと終わりに雨の日があったが、概ね晴れや曇りで経過

- ・期間を通して高気圧に覆われたが、上空の気圧の谷の影響で曇り時々晴れの日が多かった。また、11日は気圧の谷の影響で時々雨、17日明け方と18日夜から19日にかけて、寒気の流れ込みや低気圧の影響で雨となった。
- ・気温は、期間のはじめと終わりは平年を下回ったが中頃は平年並となった。降水量は、県北部では多く筑後地方では少なかった。日照時間は、平年並だった。
- ・県内各地の旬平均気温は、15.3～18.3℃（平年差 -2.1～-1.1℃）で平年より低いかかなり低く、旬降水量は、0.5～40.0mm（平年比 02～151%）で、県北部では平年より多いが筑後地方では少なく、その他は平年並だった。

旬日照時間は、平年比 97～109%で平年並だった。

下旬：天気は数日の周期で変化

- ・高気圧と気圧の谷や前線の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変化した。23日は気圧の谷や湿った気流の影響で雨が降り、県内各地で1.5～14.0mmの日降水量を観測した。また、26日は寒冷前線が通過し県内各地で2.5～31.5mmの日降水量を観測した。
- ・気温は、最高気温や最低気温は高い日や低い日もあったが、平均気温は期間を通して平年並となった。降水量は、県南部を中心に平年より多かった。日照時間は、多い所もあったが平年並だった。
- ・県内各地の旬平均気温は、13.8～17.2℃(平年差-1.2～+0.2℃)で平年並で、旬降水量は、4.5～36.5mm(平年比44～209%)で県南部を中心に平年より多く、その他は概ね平年並だった。旬日照時間は、平年比98～116%で平年並だった。

(11) 11月の気象概況

**上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かった 期間の終わりに寒冷前線の通過で
雷雨 多照**

- ・期間を通して、高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、8日夜遅くから9日朝にかけては、朝鮮半島北部を北東に進んだ低気圧からのびる寒冷前線の通過で雷雨となった。8日と9日の日降水量の合計は、県内で8.5～32.0mmを観測した。
- ・気温は期間の前半は平年を下回ったが、後半は平年を上回り8日は夏日となった所があった。降水量は8日から9日にかけての雨で概ね平年並となり、日照時間は県内各地で平年を上回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、13.5～16.4℃(平年差 -0.6～+1.6℃)で平年並、旬降水量は、8.5～32.0mm(平年比 29～112%)で概ね平年並であった。旬日照時間は、平年比 139～168%で平年よりかなり多かった。

中旬：高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化

- ・期間を通して、高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変化した。12日は、東シナ海から九州南部に進んだ低気圧の影響により県内全域で雨となり、12日の日降水量は2.0～17.0mmを観測した。その後も、14日、16日、18日、19日に県内の広い地域で数mmの降水量を観測した。
- ・気温は12日の最高気温は各地で平年を下回ったが、その後は平年並で旬の中頃は平年より低い所があった。降水量は福岡、北九州地方では平年より少なく、筑豊や筑後地方では平年並となった。日照時間は平年並だった。
- ・県内各地の旬平均気温は、11.1～14.3℃(平年差 -0.7～+0.5℃)で平年並、旬降水量は、5.5～23.0mm(平年比 18～118%)で平年並か平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 89～120%で平年並だった。

**下旬：天気は数日の周期で変化、はじめと27日前後は低気圧や前線の影響で雨
22日に朝倉で「日最大風向・風速」の11月の極値更新
24日に博多と大牟田で「日最低気温の低い方から」の11月の極値更新**

- ・期間を通して、天気は数日の周期で変化し晴れ又は曇りの日が多かったが、はじめと 27 日前後に雨となり県内各地で数 mm の降水量を観測した。24 日は寒気の流れ込みと放射冷却により最低気温が氷点下となった所があり、博多 (0.6℃)、大牟田 (-1.3℃) では「日最低気温の低い方から」の 11 月の極値を更新した。
- ・気温ははじめは平年より低かったが、旬を通して平年並か平年より高い所があった。降水量は概ね平年より少なかった。日照時間は平年並だった。
- ・県内各地の旬平均気温は、9.7~12.7℃ (平年差 ±0.0~+0.9℃) で平年並か平年より高く、旬降水量は、2.5~10.0mm (平年比 09~33%) で概ね平年より少なかった。旬日照時間は、平年比 94~114% で平年並だった。

(12) 12月の気象概況

上旬：気圧の谷や前線及び寒気の影響により曇りや雨の日が多く寒暖の変動が大きかった 高温

3日から4日にかけて、県内全ての観測地点で「日最低気温の高い方から」の12月の極値更新

4日に県内の多くの観測地点で「日最高気温の高い方から」の12月の極値更新

4日に「落雷と突風に関する福岡県気象情報」を発表

6日に「雪に関する福岡県気象情報」を発表

- ・期間を通して気圧の谷や前線及び寒気の影響により曇りや雨の日が多かった。3日から4日にかけては低気圧や寒冷前線の影響により、暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、この時期としてはまとまった雨量（3～4日の降水量合計 12.5～46.5mm）となった。また、夏日を6地点で観測するなど記録的な暖かさとなり、「日最高気温の高い方から」と「日最低気温の高い方から」の12月の極値を各地で更新した。6日は気圧の谷の通過で雨となったが、その後、冬型の気圧配置となり期末にかけ寒気の影響を受けた。
- ・気温は期間の前半と後半で寒暖の変動が大きく、前半は平年を大きく上回ったが、後半は大きく下回る日が多かった。降水量は概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を大きく下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、9.8～12.4℃（平年差 +2.0～+3.0℃）で平年よりかなり高く、旬降水量は、21.5～49.0mm（平年比 70～235%）で概ね平年より多かった。旬日照時間は、平年比 46～66%で平年よりかなり少ない所が多かった。

中旬：低気圧や気圧の谷及び寒気の影響で曇りや雨の日が多かった

19日は福岡で初霜を観測

- ・高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や気圧の谷及び寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。11日と16日に九州の南海上や九州南部を通過した低気圧の影響により県内各地で 8.0mm～21.0mm の日降水量を観測した。また、低気圧の通過後は寒気の影響により曇りで雨を観測した日

が多かった。19日は晴れて放射冷却により冷え込み、福岡で初霜（平年より7日遅く、昨年より17日遅い）を観測した。20日は気圧の谷や湿った気流の影響で広範囲に雨となった。

- ・気温は期間の前半は平年を下回る日が多く、後半は平年を大きく上回る日があり、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は平年を下回った。
- ・県内各地の旬平均気温は、6.2～9.5℃（平年差 +0.1～+1.1℃）で平年並か高く、旬降水量は、24.5～46.0mm（平年比 121～244%）で平年より多かった。旬日照時間は、平年比 65～94%で平年より少なかった。

下旬：中頃にかけて短い周期で天気の変化 終わりは冬型の気圧配置で曇りや雨か雪 寒暖の変動が大きかった

26日は「雪に関する福岡県気象情報」を発表

28日は福岡で初雪を観測

30日は脊振山の初冠雪を観測

- ・期間の中頃にかけて、高気圧と低気圧・前線や気圧の谷が交互に通過して天気は短い周期で変化した。28日から30日にかけては冬型の気圧配置で寒気が流れ込み一時的に雨や雪が降った所があった。28日は福岡で初雪（平年より13日遅く昨年より23日遅い）、30日は脊振山の初冠雪（平年より22日遅く昨年より24日遅い）を観測した。
- ・気温は寒暖の変動が大きく、期間前半は平年を上回り後半は平年を下回り、旬では平年を上回った所が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を上回る所と下回る所があった。
- ・県内各地の旬平均気温は、5.8～8.8℃（平年差 -0.1～+1.5℃）で平年並か高く、旬降水量は、4.5～18.0mm（平年比 28～89%）で平年並か少なかった。旬日照時間は、平年比 87～121%で平年並であった。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月降水量	月日照時間
平成30年 1月	低い	多い	少ない
平成30年 2月	低い	平年並	平年並
平成30年 3月	かなり高い	多い	かなり多い
平成30年 4月	かなり高い	かなり少ない	多い
平成30年 5月	かなり高い	平年並	平年並
平成30年 6月	高い	平年並	多い
平成30年 7月	かなり高い	多い	かなり多い
平成30年 8月	かなり高い	かなり少ない	かなり多い
平成30年 9月	高い	平年並	かなり少ない
平成30年 10月	平年並	平年並	平年並
平成30年 11月	平年並	少ない	多い
平成30年 12月	かなり高い	多い	少ない

階級区分について

気象要素の分布を値の大(高)、小(低)によって、「高い(多い)」、「平年並」、「低い(少ない)」の3階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」を補足的に用いています。3階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」(1:1:1)の等確率で、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」の出現率は10%です。